

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	近畿大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	キンキダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	大阪府
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	インターンシップ
	学部・研究科等名	生物理工学部
	担当教職員名・役職	新田和宏・准教授
要素①	受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	32
	受入企業等数	18
	受入企業等名	和歌山県農業協同組合中央会、和歌山県農業試験場、野村証券株式会社和歌山支店、株式会社テレビ和歌山、和歌山染工株式会社、中野BC株式会社、紀の川市教育委員会、築野食品工業株式会社、デュプロ精工株式会社、ハグルマ株式会社、湯浅醤油有限公司、株式会社島精機製作所、株式会社ニトリ、岡三証券株式会社、和歌山県畜産試験場、和歌山県環境衛生研究センター、バルトソフトウェア株式会社、和歌山県立自然博物館
	インターンシップの分類	10. 地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
	上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	
	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.以外での就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	例えば、企業の企画開発部門での業務に学生が従事した上で、当該企業が有するリソースを前提にしつつ、学生目線から新商品の開発に関するアイデアを提案し、かつ担当部門の社員にプレゼンテーションを行う。
	要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。
2-2.該当するインターンシップの内容		1.当該インターンシップは、教養教育科目として実施している 6.当該インターンシップは、選択科目として実施している 7.当該インターンシップは、授業期間中に実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)		
2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)		3年次
2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)		2単位
2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)		3年次の学生を対象に、選抜試験に合格した学生が、3年次前期の事前授業15コマを履修した上で、夏期休業期間中に概ね2週間のインターンシップ研修を行う。このようにインターンシップに関する事前研修と実際のインターンシップ研修とを組み合わせるかたちで教養科目「インターンシップ」として実施している。尚、インターンシップ研修先は、学生の希望を踏まえた上で、授業担当教員がコーディネートし研修先を確定する。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用法等を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	

	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	基本的に全てアクティブ・ラーニング形式で行い、学生が「仕事の哲学」について理解を深められるように工夫している。自己紹介に始まり、自己分析、研究テーマのプレゼンテーション、研究テーマを基にした商品開発のプレゼンテーション、また細かいビジネス・マナーを練習しつつ、そのマナーを裏付けている「仕事の哲学」の理解を促す。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	事後報告会を3年次後期に1コマ設定し、インターンシップの成果を踏まえながら、今後における指針を学生の間で共有しえる学びの場として活用している。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	スーパービジョンとして企業訪問を行い、人事担当者や研修部門の担当者と面談し、なおかつ研修中の学生との面談を行っている。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている 3.インターンシップによる到達度を具体的に示した評価基準(例:ルーブリック)を整備し、学生及び教員で共有している
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	事後報告会に合わせ、学生が所定のレポートおよび『インターンシップ研修簿』を担当教員へ提出する。このレポートが事後報告会の資料となる。また、『インターンシップ研修簿』の中に、企業のインターンシップ担当者からの学生評価表があり、今後のアドバイスという記述欄を含め、学生が研修先から如何に評価されていたのかフィード・バックされるように配慮している。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間5日間～10日間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	株式会社島精機製作所など8企業等では、10日間のインターンシップを行い、株式会社テレビ和歌山など9企業等では、5日間のインターンシップを行っている。中野BC株式会社では8日間のインターンシップを行っている。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ研修先が確定した際に、学生から企業へインターンシップ研修で取り組みたいことや学びたいことを取りまとめたプロポーザルを提出し、受け入れ先の企業はそのプロポーザルを可及的に配慮した上で研修プログラムが学生へ提示される。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	別途提出
問い合わせ先	大学等名	近畿大学
	担当部署名	生物理工学部事務部
	担当者役職名	教務・学生担当課長代理
	担当者氏名	大岡主典
	電話番号	0736-77-3888
	メールアドレス	kazunori.ohoka@itp.kindai.ac.jp